



### 福祉のしゃべり場 報告

2024年5月18日(土) 13:30~15:00

東京YWCA会館215室 参加者 9名

テーマ 最近感じた支援者、介護者としてのやりがい

ケアワークコースの同窓会事務局を担っていた事もあり、しゃべり場の開始以降、お声をかけて頂き参加するようになった。現在、特養で非常勤として働いているが、職場の課題や問題を職場内では共有できる人が居らず、このしゃべり場で話すこと、聴くことで本当に助けられている。同じ学びの同窓生と交流し、世代は違えど、向かう先の想いは同じである事を実感し心強く思う。また、先生方の参加もあり話せる喜び、会える喜び、人と人が対面で交わる機会が失われつつある今、本当に貴重な時間である。

正会員 CWコース2回生 生野のぞみ

ケアワークコースを卒業して32年、両親のダブル介護が突然始まり、自分を見失い、人と会う事さえも出来なくなっていた時に誘われたしゃべり場、今まで介護職としてやってきた思いと、コロナ禍に施設に入った両親と面会できない利用者家族としてのつらい思い。自身が混乱していたそんな時に、その思いを話す事で共感してもらい、様々な意見を聞けたしゃべり場は、私に大きなエネルギーを与えてくれ、本当に救われた気持ちになりました。CWコース2回生 松並夕貴



パネルディスカッション開催 「まちで生きるまちが変わる～ほにゃらの挑戦～」 愛恵福祉支援財団後援

2025年3月1日(土) 会場:東京YWCAカフマンホール 参加費:NPO会員 無料 一般の方 1,000円

パネリストは、「つくば自立生活センターほにゃら」の理事長川島映利奈さん。川島さんは重度障害者が自立生活を送ることで生じる差別や困難をどのように克服してきたのか。愛する夫とヘルパーの3人で生活する日々で見えてきたことや願いなど。2人目は「ほにゃら」で20年以上介護者として障害者の生活を支え、現在は介助コーディネーターとして当事者のサポートをしている森下直美さん。学生時代から障害者のボランティアとし活動を続け、現在まで障害者の自立生活を支えてきたその原動力の源は何か、介護者として関わり続けている魅力と難しさ等お話を伺います。3人目は、今年2月「まちで生きるまちが変わる～つくば自立生活センターほにゃらの挑戦～」を執筆した写真家の柴田大輔さんは、自身も介護者としてかかわる中、写真家として「ほにゃら」の利用者と関わり、そこで生きる人々とまちの変化を映し出し語ってくれます。

ファシリテーターは元日本YWCA総幹事・社会福祉士の尾崎裕美子氏 皆様のご参加お待ちしております。

#### 会費・寄付金等振込先

年会費:正会員 3,000円/年 賛助会員 一口10,000円/年 団体会員 20,000円/年

◆株式会社 ゆうちよ銀行 記号10170 番号80995501

◆三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

口座名義 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

#### ご寄付のお礼 皆様のご支援により支えられています。

2023年7月~2024年7月にご寄付いただいた皆様(敬称略・順不同)

鍋田都・渡辺美智子・笹尾正乃・日向野明子・米田直子・加藤きく子・中村道子・石橋社会保険労務士事務所・生野のぞみ・柴田邦子・徳森敬子・岡澤和枝・西岡修・奥田真美・蛭原まゆみ・東京YWCA専門学校ケアワークコース同窓会・原田千恵・近藤真里子

感謝をもってご報告申し上げます。

発行所 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

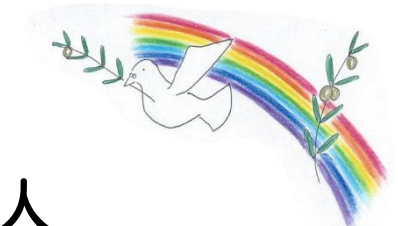
発行人:石井須美子 編集人:長尾恵理子 大庭 幸

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号 東京YWCA会館216室

TEL 03-6273-7134 FAX 03-6273-7156

HP <http://ywca-hssc.org/> 東京YWCAヒューマン で検索

2024年8月13日~19日 夏季休暇をいただきます。



## 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター



### 会報

見守り

支え

伝え合う



私たちは、福祉・介護の仕事のゆたかさを広げる活動を推進します

28号

2024年7月

2024年度 事業計画

2024年度 会員総会 報告

2023年度 愛恵福祉支援財団後援 講演会 報告

福祉のしゃべり場 報告

パネルディスカッション開催のお知らせ



## 2024年度 事業計画

理事長 田島 誠一

2024年度も、法人の理念「対人援助の仕事にかかわる人たちの成長を支援し、福祉・介護の仕事のゆたかさを広め、利用者へのより質の高い支援の実践が広がることを目指します。」の実現におき、福祉実践者が人間力を豊かにしていく事を支援していきます。

コロナ禍や人財確保難の影響によって、職員研修の意義は理解していても時間を割けないといった傾向は継続しています。当法人は対面を重視して研修を実施してきましたが、法人・施設や受講者からは対面による受講者間の交わりの有用性を評価され、満足感は高まっているように感じ取れます。

受講者数が減少しつつあるキャリアアップ研修は、オンライン実施の事業者が多い中、対面研修の効果をしっかり伝え6割以上の参加者を集めます。また新たに府中市と伊豆大島の保育園長会から研修開催依頼がありました。これに加え2024年度は開催回数を増やし取り組んでいます。

講師派遣研修は、法人の理念に基づく研修の原則を守り、粘り強く法人への働きかけを継続していきます。講師派遣にあたっては、事前にヒアリングし研修目的開催方法を法人・施設と打ち合わせオーダーメイドの研修を指向してきました。参加型を重視し、参加者の振り返りにより、明日の行動に効果が出るように取り組んでいます。

また、対人サービスにおける「効率性」や「生産性」が喧伝されつつある中で、人権尊重を基本とし、ケアのプロセスにきちんと向かいあう研修を進めていきます。

こうした取り組みを継続し、講師派遣研修を実施します。

昨年に引き続き講演会を開催し、看取りや差別解消など福祉がさらに取り組むべき課題について広く啓発をするとともに、研修需要を喚起することにもつなげたいと考えます。

これまで取り組んできた「福祉のしゃべり場」は、CWコース卒業生が中心となりテーマを決め、年3回開催してきました。ここに集う会員をはじめとした卒業生は、短い時間を共有する中で、互いに共感し、大切な価値観を確認し、先行きの見えない不透明感を抱えながらも少し肩の力が抜け元気になっている様子が伺え、大事な時間であることを実感しています。今年3月ケアワークコース同窓会は、活動を終了しました。卒業生が「自由に話し聴きあえる場」としての「しゃべり場」の活動の重要性を認識しています。孤立し悩んでいる卒業生に、個々の持つネットワークを活用して情報が届くよう努めてまいります。

## 2024年度 会員総会報告

会員総会 2024年6月19日 13:30~15:00

第一号議案 2023年度事業報告案・収支決算案

事務局長が2023年度の事業の報告。経理担当者が活動計算書案について報告。2023年度貸借対照表及び財産目録案について説明。監事より2023年度監査報告。2023年度は、活発な事業活動に伴う活動費の増加、物価高騰に対応した人件費等の影響により、約100万円強のマイナス決算となり、次期繰り越し正味財産は4,649,228円となった。

第一号議案承認可決。

第二号議案 2024年度事業計画案・予算案

事務局長が2024年度事業計画案を説明。経理担当者より2024年度活動予算書案の説明。第二号議案承認可決。

第三号議案 理事・監事の選任

理事 田島誠一 理事 遠藤久江 理事 蛭原まゆみ 理事 桑原美佳 理事 長尾恵理子 理事 西岡修

理事 石井須美子 監事 尾崎裕美子 監事 近藤真里子の選任、第三号議案承認可決。

会員総会后、臨時の理事会を開催。田島誠一氏を理事長とすることが決定。

## 会員懇親会報告

2024年6月9日 15:00~16:30 参加12名

会員総会后、懇親会が開かれました。お菓子をいただきながら、会員同士おしゃべりに花が咲きました。

「保護猫たちのためのチャリティマルシェ」を同時開催。会員のハンドメイド品、バッグやポーチ、ポストカード、雑貨などを販売しました。売上金、寄付金合わせて15,000円を千葉県四街道市の「犬猫みんなの譲渡会」さんに寄付いたしました。販売品のご提供、ご寄付等ご協力いただきまして、ありがとうございました。



## 2023年度 講演会 報告

愛恵福祉支援財団後援事業

### 第1回 講演会「その人らしさが輝く支援～人生紙芝居～」講師 奥田真美氏

2023年12月16日(土) 東京YWCA会館217室 13:00~16:00

定員30名 参加者24名(会員7名・一般17名)

目の前の人を、高齢者・認知症・失語症等ととらえるのではなく、まずひとりの人として接し、ともに生きる実践の中から「人生を聴く」「紙芝居として表現する」ことが生まれました。紙芝居実演、主人公のエピソード、紙芝居作成過程での仲間づくりが進み、落ちつけなかった方が仲間の中で認められ落ち着いた事。さらに、戦争体験の紙芝居で、子ども達に平和教育をされているというお話には、皆様感銘を受けていたようでした。(蛭原)



### 講演会に参加したNPO会員の鍋田都さんの感想

認知症などにより、コミュニケーションや介護がスムーズに・穏やかにはなかなかいかない中で、まずその人に興味を持つ、知りたいと思うことからスタートするのが本来の介護なのではないかと思いました。たとえば奥田さんは、その方の人生を知るために、養蜂家ならその職業のあらゆることを調べてアプローチしていき、開かなかった引き出しを開け、出なかった言葉を引き出し、信頼関係を確かなものにしていきます。笑顔になり、拒否していた介護をすんなり受け入れてくれる。何より、紙芝居の主人公だけでなく、利用者同士もぎくしゃくしがちな同じデイサービスの利用者の方々からも、紙芝居を通して労いや賞賛の声をかけてもらえる。またすぐに忘れてしまうかもしれないが、そういう心地よさは積み重なっていき、人生紙芝居で今も、これからの人生も楽しくなるのだなあと思いました。良いことしかありませんね。介護の仕事をしている自分にも、プライベートの自分にとっても、前向きになれる温かい講演会でした。

### 第2回 講演会 「死を前にした人にあなたは何ができますか？」

ユニバーサルホスピスマインドを全ての人生のそばに 講師 小澤 竹俊氏

2024年3月16日(土) 東京YWCA会館カフマンホール 14:00~16:00

定員70名 参加者72名(会員10名・一般62名)

在宅介護経験者、訪問介護や施設職員、いのちの電話スタッフ等、日々のちと向き合い働いている方々、自身や家族のこれからの備えて、様々な期待と意思を持って講演会に参加くださいました。「誰かの支えになろうとする人こそ、支えを必要としている」「苦しんでいる人の気持ちを理解することが本当に行えるのか」とのメッセージや、問いかけ。「苦しみとは、現実と希望のギャップ」相手の苦しみに気づく感性を磨くには等。懐かしい昭和歌謡、人の感情を歌った唄が講演の合間に沢山流れ、和やかな雰囲気の中講演会が進みました。親を見送り2年、講演会を聴きながら初めて涙がこぼれたとの感想も頂き、講師の「会場においでの方が自分事に向き合えればそれで講演の目的は達成なのです」との言葉通りに、笑いあり涙ありの講演会でした。

今までの人生で苦しかった時、何が支えになったのか、など隣同志話し合う時間も設けられ、「苦しんでいる人は、自分の苦しみをわかってくれる人がいると嬉しい」どうしたらわかってくれたと思える聴き手になれるのか等々盛りだくさんでした。マイナスの言葉を否定しやすいですが、否定せずに聞くということに気付いたという感想も多かったです。最後に、講師の活動を紹介するテレビ映像「在宅で家族とともに最期を迎える患者の思いと家族の葛藤。患者、家族それぞれの思いに寄り添い心の準備を促すための支援。」命の終わりと、今を生きる希望に想いを馳せる時間でもありました。(蛭原)